多自然川づくり取り組み事例

タイトル	阿賀川における礫河原再生による事業効果		
水系／河川名	阿賀野川水系／阿賀川	河川分類	大河川
河川の流域面積	7710km2	整備計画流量	2900m3/s(W=1/200)
セグメント	1		
事業	環境整備	事業開始年度	平成21年度
目標設定	定性的	段階	C(ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価時)
課題・目的(主な)	礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な)	掘削(河床)、樹木伐採、除根		
配慮事項(主な)	委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

かつての阿賀川上流部は複列砂州河道であり、適度な攪乱によって生じる礫河原が特徴的な河川環境であった。1970～80年代頃より低水路が形成され、複列砂州河道から単列砂州河道へ変化し、樹木繁茂、低水路蛇行による水衝部が形成されみお筋の固定化や樹林化の進行により、瀬や淵、礫河原が減少し、多様な水域環境の単調化が環境上の課題となっている。

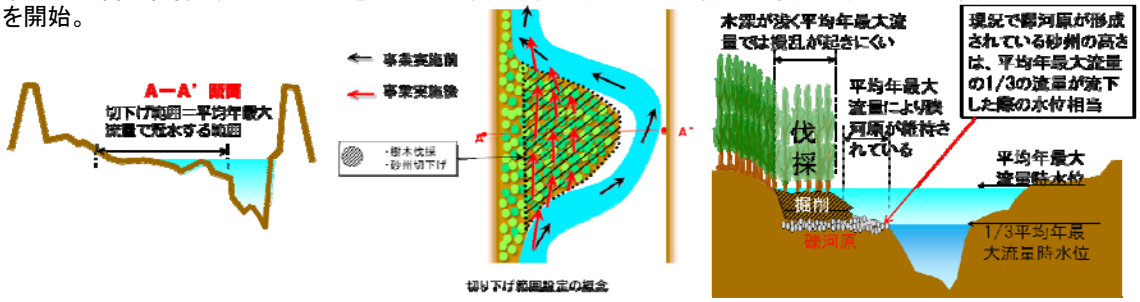
<目標設定>

本事業はかつての阿賀川らしい環境である礫河原の再生を目標に実施しているものである。

また、河道全面が礫河原であった昭和40年代と比較して河床高がフラットでない現在では，全域の礫河原化は困難であることから、本事業での目標を、川幅の5割以上が砂礫で構成された昭和60年代当時の姿に設定した。

取り組み内容・対策例

事業区の樹木伐採・砂州切り下げを平成21年度から実施、平成25年度に工事完了、平成26年度からモニタリングを開始。

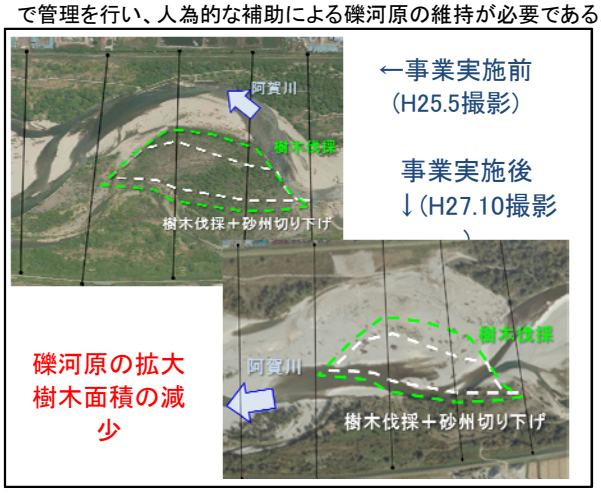


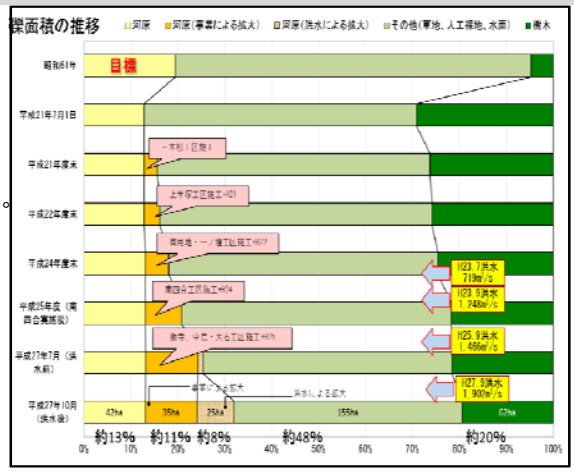
モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜モニタリング結果＞

・事業再生実施後、4年が経過し、礫河原面積は洪水によって拡大し、礫河原環境に依存する植物や生物の成育・生息状況も増加または維持されている。

・礫河原は完全に自然営力だけで維持していくことは困難であるため、樹木の繁茂予測に基づいた土砂の除去や樹木の伐採等で管理を行い、人為的な補助による礫河原の維持が必要である。





＜今後の対応方針＞

・礫河原維持のため砂州切り下げ実施については、再堆積及び樹林化の抑制に向けてヤナギの実生に着目し、砂州高の維持管理手法について検討する。

備考

問い合わせ先	阿賀川河川事務所　工務課
電話番号	0242-26-6514

平成30年度 全国多自然川づくり会議 北陸ブロック選出

阿賀野川水系／阿賀川　阿賀川河川事務所

阿賀川における
礫河原再生による事業効果

Keywords ： 自然再生モニタリング，礫河原再生，樹林化

●Before

自然再生事業実施前

自然再生事業実施(H21-H25)
洪水(H23,H25,H27)

●After

自然再生(礫河原再生）事業として低水路蛇行区間の砂州列の切り下げを行い、その後、出水等を受けての河道の変化や動植物モニタリングを実施し、阿賀川における礫河原再生の効果及び維持管理の検討を行った結果を報告する。